

王子駅周辺は、江戸時代から、飛鳥山を中心としたにぎわい・交流の場として広く知られており、明治期以降も、日本の近代化を支える工場等の産業・商業の集積とともに、鉄道や路線バス等の多様な公共交通モードが接続する交通の要衝として、発展を続けてきました。



飛鳥山を中心としたにぎわい・交流の場

花見の名所としての飛鳥山の開放

徳川吉宗が飛鳥山に桜を植樹する(1720年)。その後、当時禁止されていた酒宴や仮装が容認され、庶民は様々な趣向を凝らして楽しんだ。

飛鳥山が日本初の公園に指定

上野・芝・浅草等とともに飛鳥山が日本最初の公園に指定される。(1873年)

飛鳥山一帯における多様な交流の場の展開

石神井川沿い料理屋
 ・江戸期より賑わっていた茶屋や料理屋には、開国後、多くの外国人も訪れた。
 渋沢邸
 ・渋沢栄一の飛鳥山邸は1901年に本邸となり、グラント將軍(米国18代大統領)や蒋介石など多くの賓客を迎え入れた。

多様な公園施設等の整備

飛鳥山展望台(1970年)
 音無親水公園(1988年)
 あすかパークレール(2009年)

近年における多様な文化・交流・にぎわい施設の展開

十條ポウル王子センター(現サンスクエア)(1971年)
 北とびあ(1990年)
 飛鳥山3つの博物館(紙の博物館、北区飛鳥山博物館、渋沢史料館)(1998年)
 お札と切手の博物館(2011年市ヶ谷より移転)

産業・商業の集積・発展

日本の近代化を支える工場等の設立

抄紙会社(1873年)
 大蔵省紙幣寮抄紙局(1875年)

製紙業等の多様な製造工場や軍事施設等が展開され、それらとあわせて市街地が拡大される

戦災復興土地区画整理事業

王子駅前公園や柳田公園等の広場、映画館や駅前百貨店をもつ商業空間等が整備される
 ・銀座・上野・浅草・池袋・新宿・渋谷・五反田・大森・錦糸町とともに「消費歓興地区」の指定も受け、「大衆の消費のための利便と健全な娯楽中心を造成する」などとされた。

商店街等の発展、工場用地の土地利用転換により、大規模な住宅が整備される

交通の要衝

江戸の市街と直結

日光御成街道(岩槻街道)の開通。

石神井川の舟運の活用

石神井川の拡張工事により、荒川(現在の隅田川)からの舟運の便に活用されるようになる。明治に入ると工業用水としての使命を持つようになる。

王子駅開設

上野～熊谷間に鉄道が開通し、王子駅が開設される。(1883年)

都電の開通

王子電気軌道(現・都電荒川線)の停留場が設置される。(1915年)

地下鉄の開通

営団地下鉄(現・東京メトロ)南北線が開業する。(1991年)

首都高出入口開通

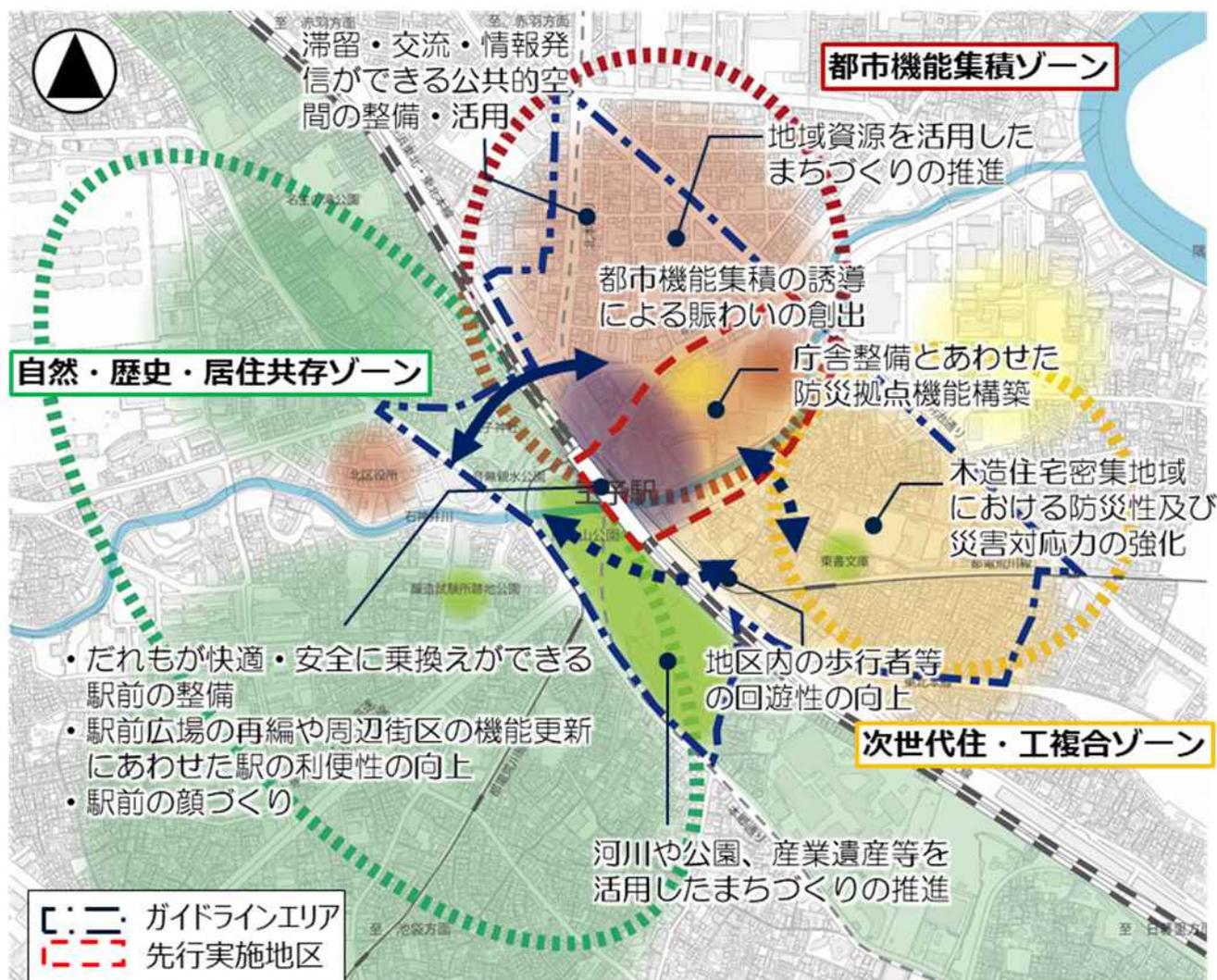
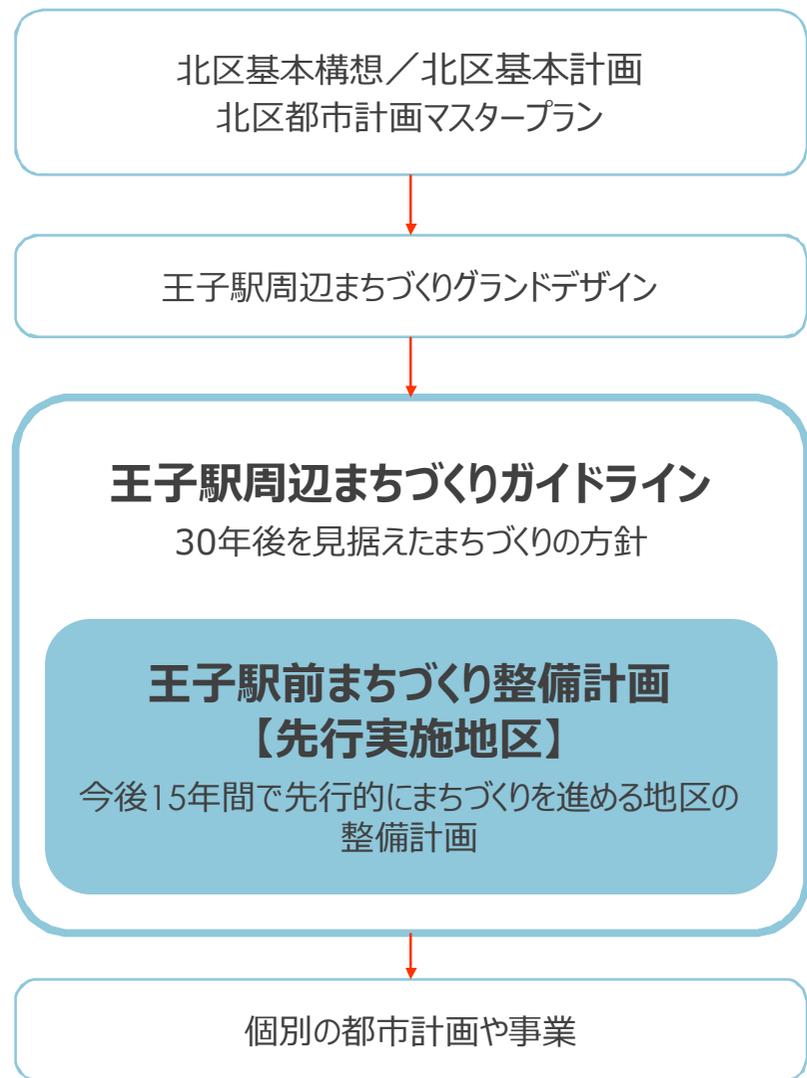
王子北出入口(2002年)
 王子南出入口(2015年)

グランドデザイン策定を契機とした新たな展開へ

現在、北区新庁舎の建設を契機とし、「王子駅周辺まちづくりガイドライン」の策定に向けた検討を進めております。

本ガイドラインは、北区基本構想・都市計画マスタープラン等を上位計画とするグランドデザインをより具体化し、個別の都市計画や事業へとつなげていくために必要な事項を定めるものです。区民・地権者・民間事業者・行政など多様な主体が連携してまちづくりに取り組む際の指針となります。

また、約30年後を見据えたまちづくりの方針を示すガイドラインに、概ね15年で整備予定の先行実施地区の整備計画を内包させ、具体的な整備内容等を示します。



まちづくりの方向性（抜粋）（まちづくりグランドデザインより）

グランドデザインを策定した平成29年以降、王子駅周辺を取り巻く社会的な動向も変化してきました。

01 ウォーカブルなまちづくり

官民一体となった「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの実現に向けた取り組みが各地で行われています。



Walkable 歩きたくなる
Eye level まちに開かれた1階
Diversity 多様な人の多様な用途、使い方
Open 開かれた空間が心地よい
出典：国土交通省資料

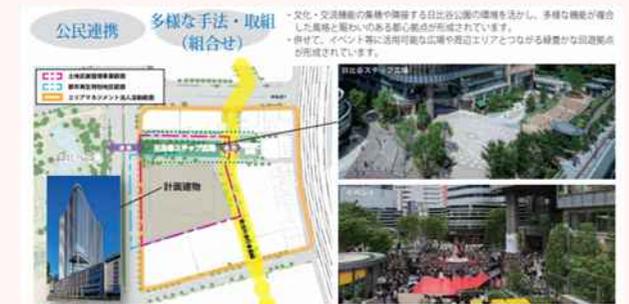


出典：東京都「『未来の東京』戦略」

02 市街地整備2.0

「つくる」から「つかう」視点での市街地整備へ、エリア価値や持続可能性の向上に向けた考え方の転換が求められています。

これまでの「『空間』・『機能』確保のための開発」を「市街地整備 1.0」とすれば、ポジティブバイラルにより、「『価値』・『持続性』」を高める複合的更新を進める「市街地整備 2.0」とも呼ぶべき考えへと転換が必要です。



出典：国土交通省資料

03 脱炭素社会への取り組み

北区は令和3年6月に「北区ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。脱炭素社会への取組みを通じた気候変動の対応が求められています。



北区ゼロカーボンシティ宣言
～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて～

今私たちは、かつてないスピードで進む地球温暖化の影響により、「気候危機」と呼ぶべき極めて深刻な自然の猛威に直面しています。

北区は、四つの河川や南北に走る崖線といった地理的特徴を有し、水と緑のうるおいあふれるまちです。元気環境共生都市宣言を平成17年に行い、誰もが豊かで健康に暮らし続けることのできるまちを目指して、区民とともに環境問題に積極的に取り組んでいます。しかし、これからはより一層、誰もが気候危機の現状を我が事として受け止め、それぞれが「今、自分たちができること」を意識し、温暖化の進行にブレーキをかける行動を起こしていく必要があります。

そこで北区は、強い危機感・決意のもと、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）」を目指し、ここに脱炭素社会への移行に全力で取り組むことを宣言します。

2050年は遠い未来ではありません。今を生きる私たちのみならず、これから生きる、これから生まれてくる子どもたちのために、区民や地域、事業者の皆さまと一体となり、「活力あふれる持続可能なまち北区」を明日へとつないでまいります。

令和3年6月24日
東京都北区

グランドデザインを策定した平成29年以降、王子駅周辺を取り巻く社会的な動向も変化してきました。

04 水災害の激甚化

気候変動の影響により激甚化する自然災害に対し、「防災・減災」の取り組みが重要化しています。

王子駅周辺は荒川氾濫時の浸水が想定されています。



出典：東京都北区洪水ハザードマップ

05 大規模な地震災害への対応

新たな防災拠点となる新庁舎へのアクセスルートの確保や、帰宅困難者対策の充実、木造住宅密集地域の防災性の向上が求められています。



出典：北区防災地図



出典：H28年度東京都土地利用現況調査

社会的な動向の変化を踏まえ、ランドデザインで整理した王子駅周辺の魅力と課題を、改めて整理します。

王子駅周辺まちづくりランドデザイン（H29年度）

視点1
「ウォークブル」

- ・車中心から**人中心の空間**へと転換
- ・街路空間を**人々が集い、憩い、様々なアクティビティを繰り広げられる場**へ
- ・まちに**活力とイノベーション**をもたらし、都市の**魅力を向上**

視点2
「市街地整備2.0」

- ・先行実施地区を起爆剤に、**民間投資を促進**
- ・新規開発のみならず、**リノベーション等による都市機能強化**
- ・自然・文化・歴史資源を活かし、**王子ならではの魅力を向上**

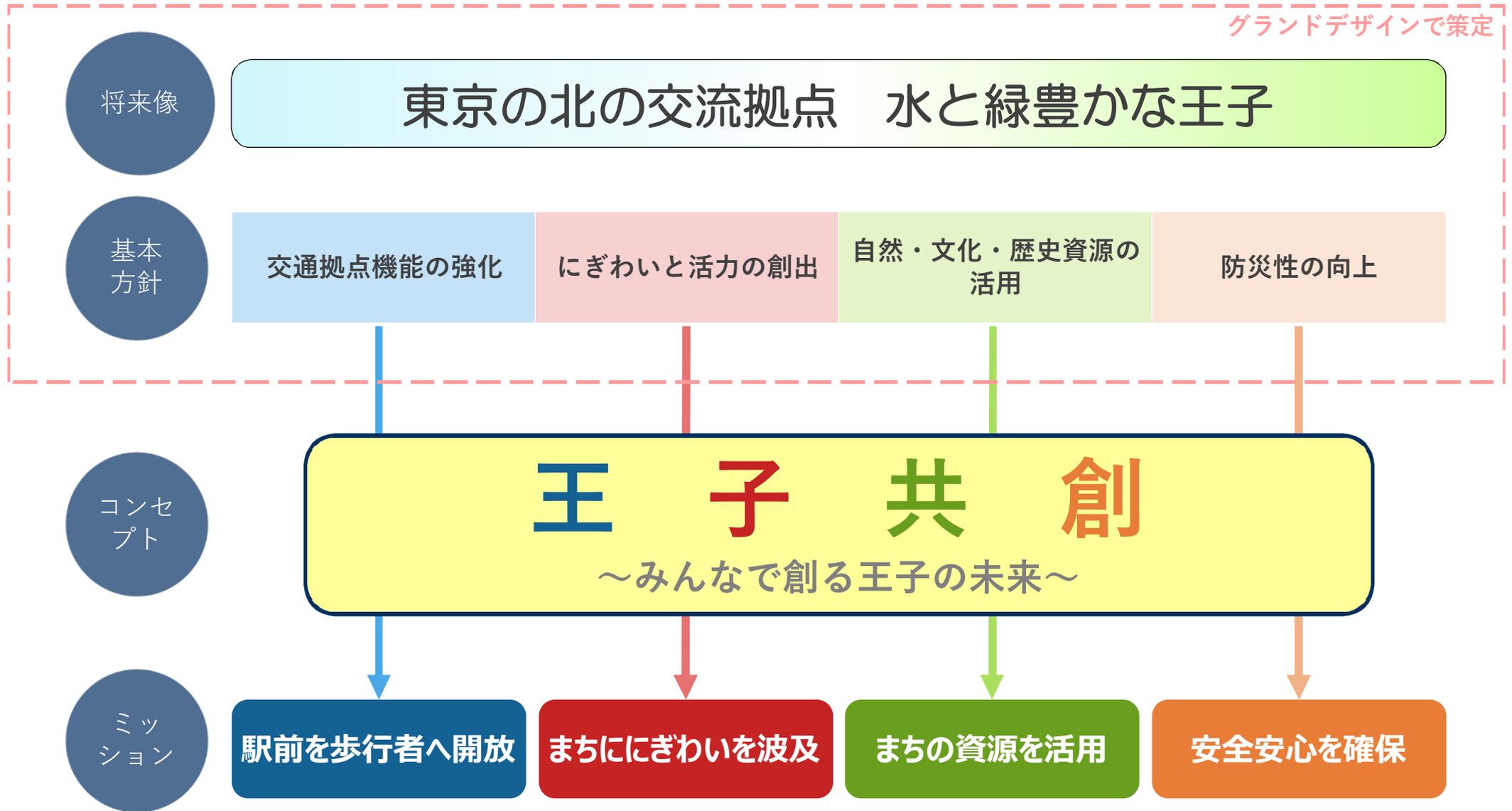
視点3
「防災・減災」

- ・気候変動により**激甚化する自然災害を防ぐ**
- ・避難路の確保等、**被害を最小限に抑える**まちづくり
- ・高齢者、障がい者、子供など、**誰もが安心して暮らせる環境**を実現

	東京の北の拠点	交流の場	自然・文化・歴史資源が豊かなまち	地域を守る防災力
魅力	<ul style="list-style-type: none"> ● 高い交通結節性 ● 公共・公益施設、業務施設の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な来街者によるまちへのかかわり ● 「多様なにぎわい・交流の場」「産業・商業の場」としての発展の歴史 ● 業務エリアと居住エリアが近接 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然・文化・歴史資源等が駅直近に点在 ● 憩いの場、産業発展の礎となった石神井川 ● 四季の移ろいとともにある王子の風土 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域防災拠点の刷新 ● 水害時の避難先となる高台 ● 幹線道路や駅北側の基盤
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 南部エリアとの格差拡大 ● 交通拠点としての収容能力不足 ● 低い拠点性 ● 歩行者の回遊性が低い駅前 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い人口増加率・高い高齢化率 ● JRや幹線道路、石神井川によるまちの分断 ● にぎわい創出に寄与する施設・機能や空間の不足 ● 都市施設や建物の陳腐化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水の質と緑の量 ● 統一性のない駅前景観 ● 自然・文化・歴史資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 木造住宅密集地域の災害対応力 ● 水害時の高台への避難経路 ● 帰宅困難者対策 ● 石神井川の治水対策

まちづくりのコンセプトを「王子共創～みんなで創る王子の未来～」とします。このコンセプトに基づき、これまでの先人たちの努力の基に築かれてきた王子のまちを、現在、王子に関わる多様な方たちと手を携え一緒に創り、未来へ託していきます。

また、グランドデザインで示された将来像と4つのまちづくりの基本方針を受け、概ね30年後を見据え、まちづくりにおいて達成すべきミッションをそれぞれ設定します。



ミッション「駅前を歩行者へ開放」を達成するために、4つの戦略を掲げます。

3つの駅前広場で機能を分担し、利便性と兼ね備えた交通結節機能を確保します。石神井川などによるまちの分断を解消し、駅前の歩行者空間の創出をアシストします。

これらにより、王子駅周辺は歩行者中心のエリアへの変貌を図ります。

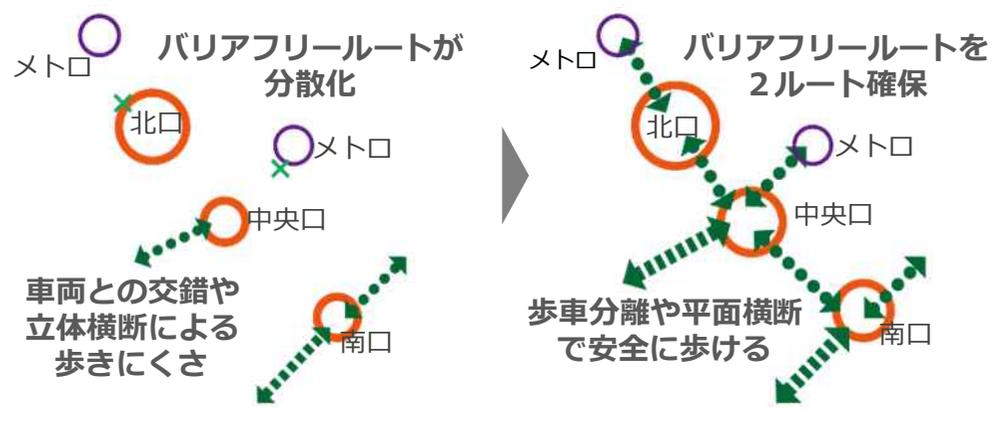
＜戦略1＞ 駅前の歩行者空間の拡充

新庁舎整備や民間開発等により歩行者空間を創出し、人の居場所となる空間を拡充し、より快適で魅力的な王子駅前を目指す。



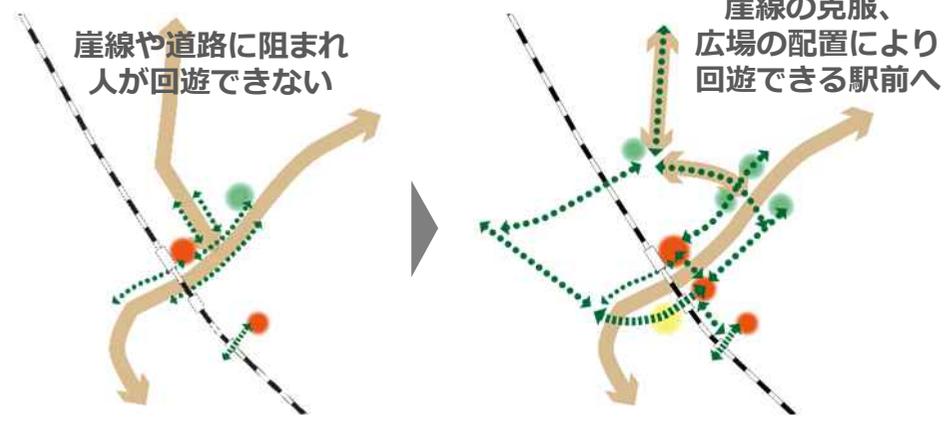
＜戦略3＞ 安全に利用できる駅前空間の形成

高齢者や交通弱者の公共交通の利用にも配慮し、今後のまちづくりにあわせてバリアフリー乗り換えルート拡充を目指す。



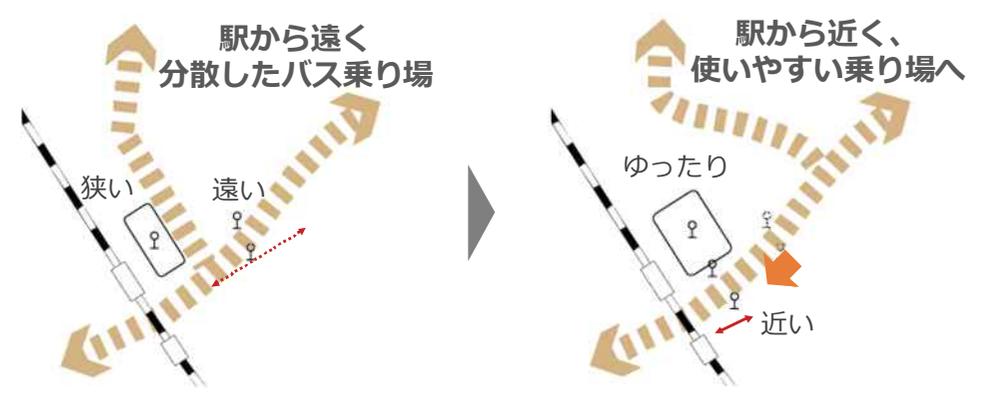
＜戦略2＞ 駅とまちをつなぐ歩行者ネットワークの拡充

歩行者が自由に移動し、地上レベルを中心としたまちを回遊するためのネットワークを拡充する。



＜戦略4＞ 分かりやすく利用しやすいバス等の乗り場形成

分散したバス乗り場を再編成し、様々な交通モードが分かりやすく利用しやすい乗り場の形成を目指す。

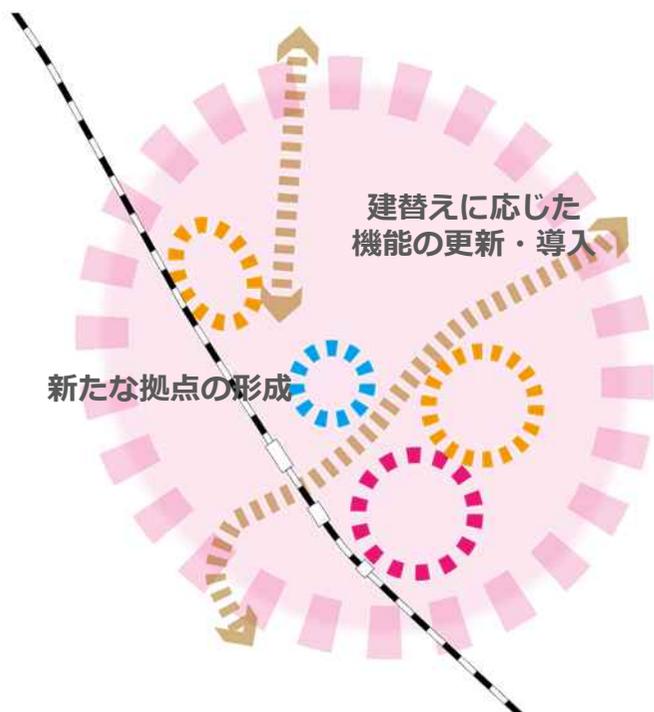


ミッション「まちににぎわいを波及」を達成するために、2つの戦略を掲げます。

「にぎわいと交流の拠点」の形成と、回遊のネットワークの形成を図り、駅前の活気とにぎわいが波及するまちづくりを推進します。

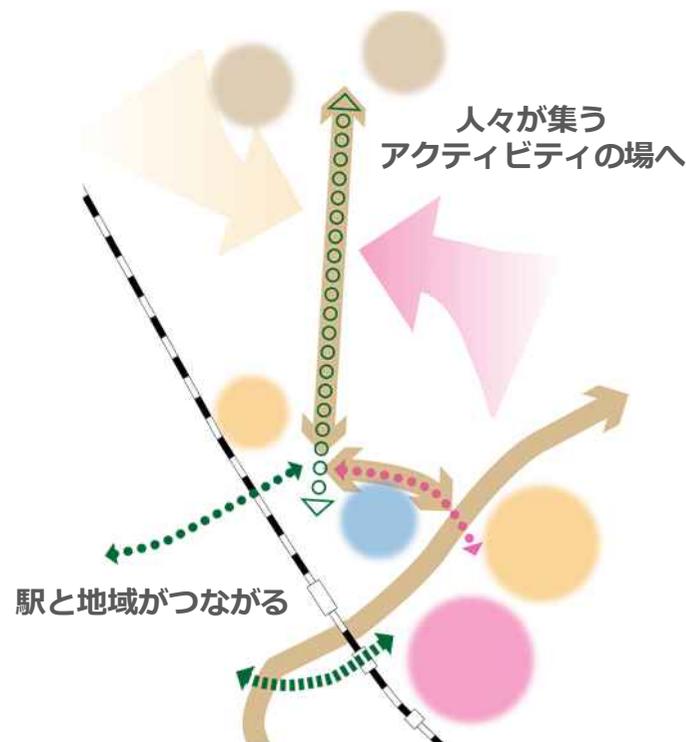
<戦略5> 都市機能が集積した新たな拠点の形成

王子駅の利便性を活かし、駅周辺の施設や建物の建替えなどに応じて様々な機能を確保することで、多様な人々が集う、出会う、交流する新たな拠点を形成する。



<戦略6> アクティビティを生み出す交流軸の形成

駅と地域をつなぎ、様々なアクティビティが生まれる、交流の場を形成する。住民や学生が連携するなど、まちに活気が出る仕組みづくりを推進する。

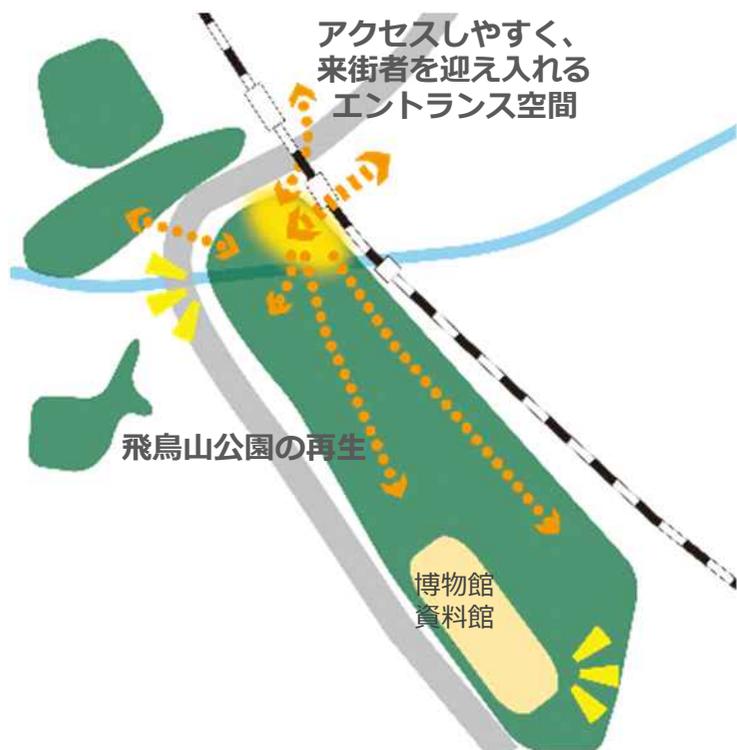


ミッション「まちの資源を活用」を達成するために、2つの戦略を掲げます。

飛鳥山公園等が持つ自然・文化・歴史のまちの資源を活かし、ポテンシャルをさらに高め、王子の顔として地域イメージの強化を図ります。

<戦略7> 王子の顔、飛鳥山公園の魅力の強化

王子の顔として鎮座する飛鳥山公園の自然・文化・歴史を活かし、より親しみやすく再生することにより、王子駅周辺の魅力を高める。



<戦略8> 自然・文化・歴史に触れる機会の創出

利便性の高い交通結節点でありながら自然・文化・歴史を感じられる駅前空間は、王子ならではの魅力であり、みどり空間の充実や地域資源を巡るネットワークを形成していく。

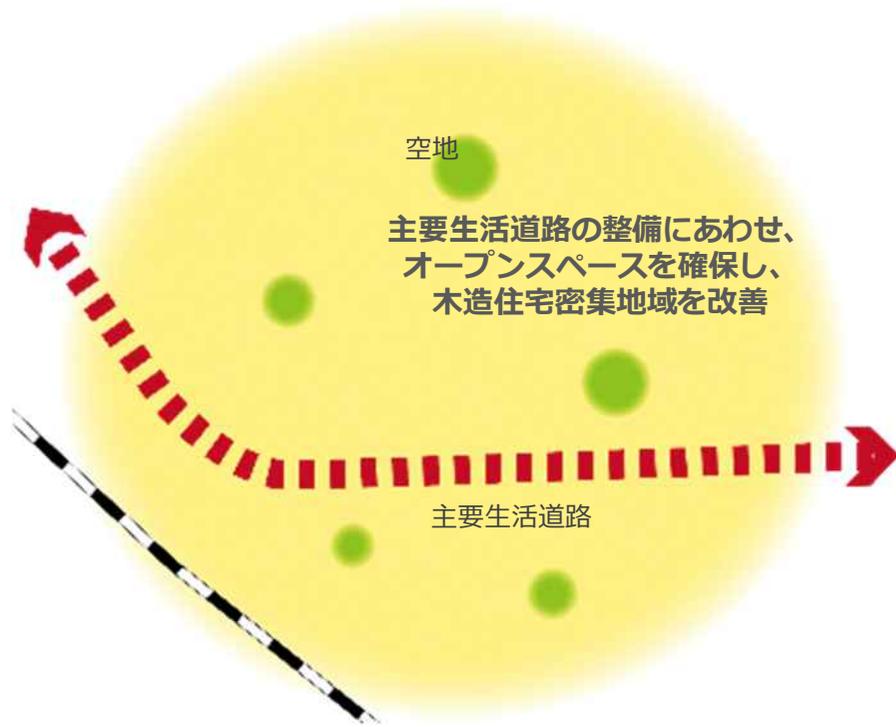


ミッション「安全安心を確保」を達成するために、2つの戦略を掲げます。

地域の防災性や災害対応力を高めるとともに、脱炭素を目指すまちづくりなどによって、気候変動への適応により災害発生を抑制するなど、安全安心の確保を図ります。

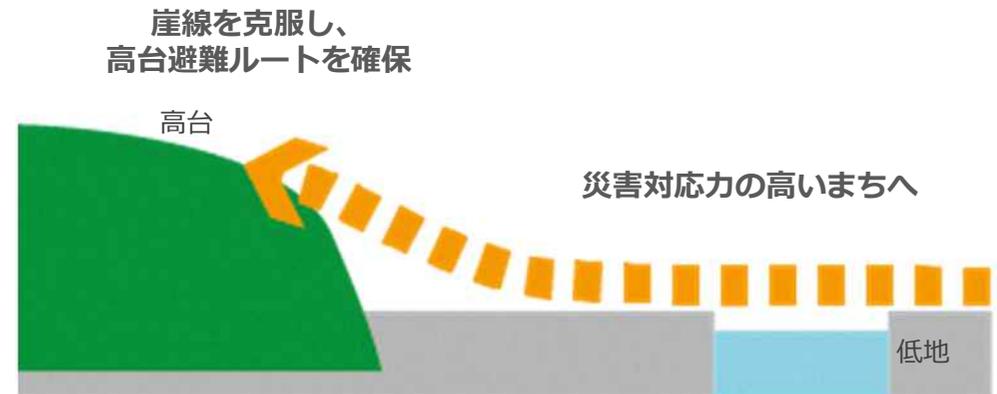
<戦略9> 災害に強い住環境の形成

堀船・栄町エリア等の、工場等の施設が点在する木造住宅密集地域では、災害時における緊急車両の通行を確保する主要生活道路の整備やオープンスペースの確保等により、防災性および災害対応力の強化を図る。



<戦略10> 発災時に備えたまちの災害対応力の強化

万が一の水害時に備えた高台避難ルート確保や、地震時の帰宅困難者対策の推進、的確な避難誘導の仕組みを整えるなど、まちとしての災害への備えを高める。



各ミッションを達成し、まちの将来像を実現するために王子駅周辺に求められる機能・役割を勘案し、必要な事業メニューや目的について、「まちづくりプロジェクト」として整理を行います。

当該プロジェクトのうち、より短期的な実現を目指すものは、先行実施地区の整備計画に反映します。

ミッション：駅前を歩行者へ開放

① 駅前の歩行者のたまり空間の確保

新庁舎と駅を結ぶ動線上に歩行者のたまり空間を確保するため、駅前の開発にあわせて、新たな広場機能の整備を誘導します。

② 歩行者ネットワークの強化

鉄道や崖線による分断を解消し、明治通り・石神井川を横断する歩行者ネットワークを整備します。

③ 来街者を迎え入れるエントランス空間の魅力化

駅から新庁舎や飛鳥山公園へのアクセスルート上に、来街者が交流し、まちへのエントランス空間となるひろば等を整備します。

④ 北口・中央口での歩行者・自転車の交錯解消

歩行者と自転車の交錯を解消するため、ウォークブルエリアの縁辺部に駐輪場の再配置を推進します。

⑤ 北口駅前の車両の通過交通を抑制

北口広場の歩行空間の拡充に向けて、王子駅前～北本通りの通過交通の抑制を図るため、迂回ルートとなる道路の整備・改良を検討します。

⑥ バリアフリー乗り換えルートの拡充

高齢者や交通弱者の公共交通の利用にも配慮した、JRとメトロの乗り換えバリアフリールートの拡充を検討します。

⑦ バスのりばの効率性、利便性向上

北口広場と周辺の道路上に分散している路線バスのりばの集約化を検討します。

⑧ 広場の機能再生

北口・南口の既存の広場と新たな広場空間の役割を明確にした上で、広場を整備します。



各ミッションを達成し、まちの将来像を実現するために王子駅周辺に求められる機能・役割を勘案し、必要な事業メニューや目的について、「まちづくりプロジェクト」として整理を行います。

当該プロジェクトのうち、より短期的な実現を目指すものは、先行実施地区の整備計画に反映します。

ミッション：まちににぎわいを波及

⑨ 駅前の利便性を活かした「にぎわい拠点」の形成

駅前の各街区においては、「にぎわい拠点」の形成に向けて、土地の有効・高度利用と商業・業務・文化等の都市機能の充実を図るため、区と権利者との協働により再開発を促進します。

⑩ 既存ストックを活用した機能更新

基盤の整った北本通り沿道や明治通りの北側は、既存ストックを活用して、コワーキング等新たな業務機能を誘導し、職住近接のまちづくりを推進します。

⑪ 駅とまちをつなぐ交流軸の形成

駅前のにぎわいを周辺市街地へと波及させ、地区全体の活性化を図るため、「にぎわい拠点」と周辺市街地を結ぶ道路整備を推進し、沿道の街並み形成を誘導します。



各ミッションを達成し、まちの将来像を実現するために王子駅周辺に求められる機能・役割を勘案し、必要な事業メニューや目的について、「まちづくりプロジェクト」として整理を行います。

当該プロジェクトのうち、より短期的な実現を目指すものは、先行実施地区の整備計画に反映します。

ミッション：まちの資源を活用

⑫民間活力の導入による飛鳥山公園の再生

駅前に活気とにぎわいを生み出すために、地区の顔である飛鳥山公園を民間活力により再整備します。

⑬飛鳥山公園へのネットワークの強化

飛鳥山公園を中心とする観光周遊動線を形成するため、遊歩道や立体横断施設等を整備します。

⑭水と緑のゆとりを感じる新たな空間の創出

水と緑豊かな空間を創出するため、石神井川遊歩道、RSS及び北本通りの再整備を推進します。

⑮王子ならではの歴史や文化の魅力発信

交流人口の増加を図るため、王子ならではの魅力的なイベントや情報発信のツールを検討します。



各ミッションを達成し、まちの将来像を実現するために王子駅周辺に求められる機能・役割を勘案し、必要な事業メニューや目的について、「まちづくりプロジェクト」として整理を行います。

当該プロジェクトのうち、より短期的な実現を目指すものは、先行実施地区の整備計画に反映します。

ミッション：安全安心を確保

⑯木造住宅密集地域の改善

堀船・栄町地区において、木造住宅密集地域の改善を図るため、避難経路となる道路の整備と、建物の不燃化を促進します。



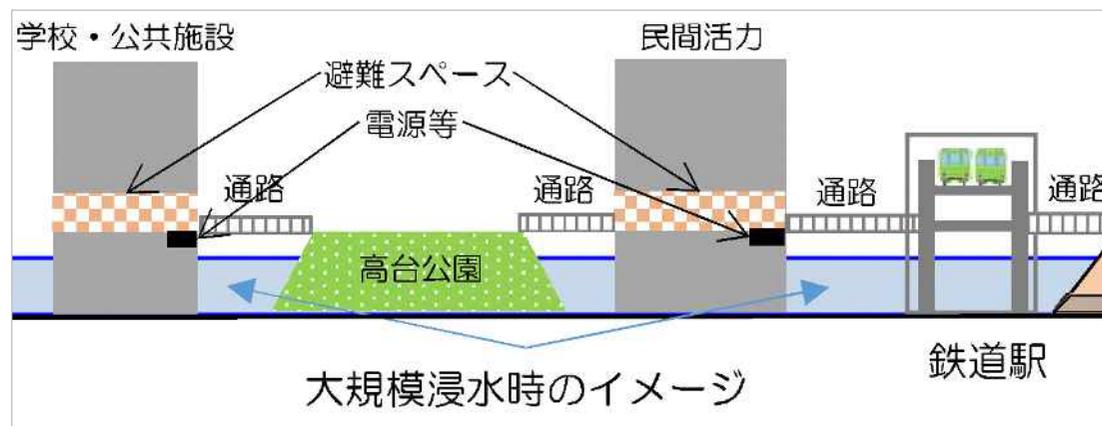
⑰水害時の高台避難ルートの確保

石神井川の治水整備や下水道整備等により水害リスクの低減を図るとともに、万が一の水害に備えたリスク回避のまちづくりとして、東側の低地からJR線や石神井川を越えて高台へ避難できる歩行者動線を整備します。



⑱災害対応拠点の形成

大規模災害時の防災拠点機能を新庁舎へ導入し、災害対応拠点の形成を図ります。



王子駅周辺まちづくりグランドデザインは3つのゾーニングレベル（都市機能集積ゾーン、次世代住・工複合ゾーン、自然・歴史・居住共存ゾーン）で整理していましたが、本ガイドラインでは7つのエリア別のまちづくりの方向性を示すことで、きめ細かく地区の特性を活かしたまちづくりを進めます。

<グランドデザイン>

<ガイドライン>

ウォーカブルエリア

拠点形成エリア

地域交流エリア

都市機能誘導エリア

公園エリア

自然・文化・歴史エリア

次世代住工複合エリア

都市機能集積ゾーン

自然・歴史・居住共存ゾーン

次世代住・工複合ゾーン

■地域交流エリア

<エリアの特性>

・広幅員の北本通りに面するエリアです。学校などつながる北本通り沿道には商店が、駅近くには北とびがあります。

<まちづくりの方向性>

・北本通り沿道の公共的空間の充実を図り、来街者や地域住民等によるコミュニティの交流を促進するエリアです。

■自然・文化・歴史エリア

<エリアの特性>

・東京十社である王子神社は当初、王子権現という名称で、現在の『王子』の地名の由来ともなっている、自然と文化と歴史が一体となったエリアです。

<まちづくりの方向性>

・駅前から連なる商店街と王子神社及び参道の趣のあるまち並みの調和を図ります。
・王子神社の歴史を守りつつ、周辺地域では歴史的環境の保全により付加価値を向上します。

■公園エリア

<エリアの特性>

・王子の最大の観光資源である唯一無二の存在＝飛鳥山公園が位置します。

<まちづくりの方向性>

・王子駅周辺の顔として、飛鳥山公園のさらなる魅力向上と、周辺の回遊性向上に資する再整備を図ります。

■（仮称）ウォーカブルエリア

・鉄道駅を中心に、公共交通の利便性を高め、安全・快適な歩行者優先の空間形成を図るエリアです。

・歩行者優先で回遊性の高いまちづくりを推進していくエリアとして、道路・鉄道・河川等による分断を解消し、多様な人々が自由に行き来でき、歩きやすいだけでなく、集い、憩い、多様な活動を展開できるゆとりある空間づくりを推進します。

■都市機能誘導エリア

<エリアの特性>

・道路や公園などの基盤整備が完了しており、比較的新しい建物が建ち、商業・業務・住宅が混在するエリアです。

<まちづくりの方向性>

・質の高い都市ストックを活かし、王子駅周辺の商業・業務集積を支え、職住近接の市街地を実現していくエリアです。

■拠点形成エリア

<エリアの特性>

・過去には製紙工場が立地し、王子のまちをけん引してきたエリアです。現在は印刷局の工場や商業施設が位置します。

<まちづくりの方向性>

・商業・業務・住宅等の複合的な土地利用により高度利用を促進し、王子の顔にふさわしい、魅力ある拠点形成を図るエリアです。

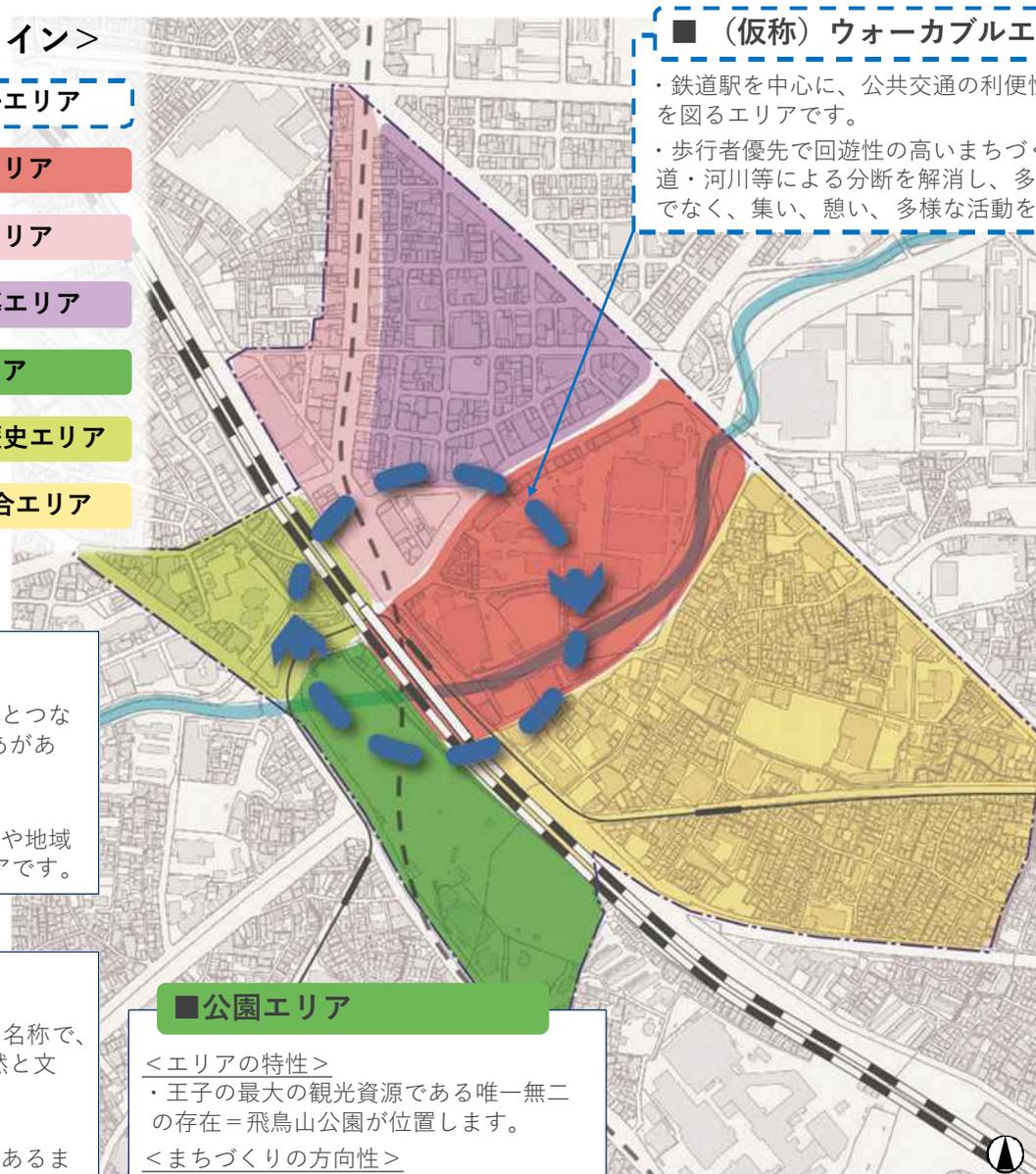
■次世代住工複合エリア

<エリアの特性>

・狭い道路が多く建物が密集しており、防災面で不安を抱えるエリアです。住宅と工場が混在しています。

<まちづくりの方向性>

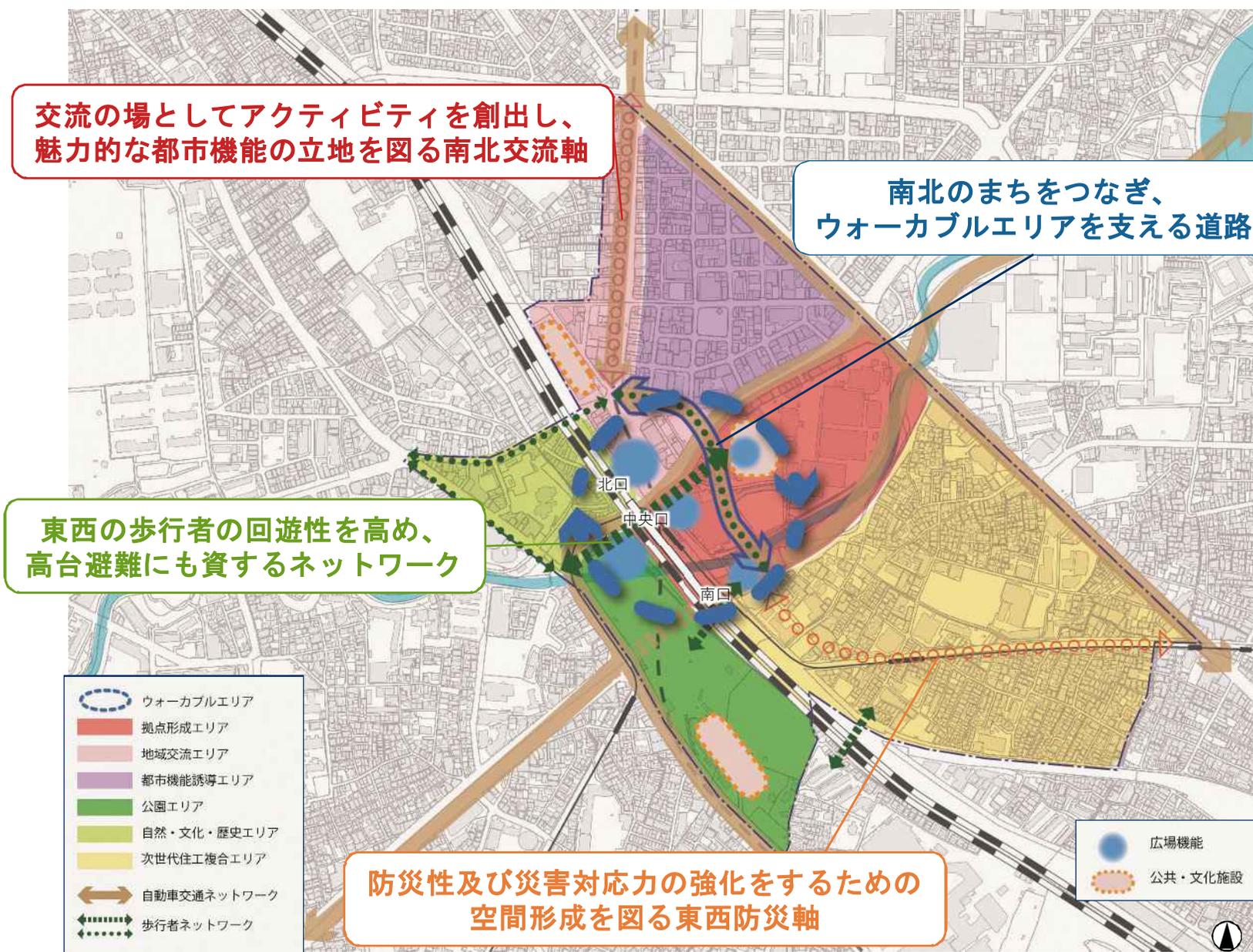
・コミュニティに根ざした次世代の居住・産業の場として、住工の調和のとれた複合市街地の再生を図るエリアです。



王子駅周辺のまちの将来像を具現化し、形成すべき都市構造の方向性を示します。

エリアごとの方向性に沿った土地利用の誘導に加え、各エリアの連携を支える骨格軸となる南北交流軸と東西防災軸、ウォーカブルエリアを支える道路、回遊性と高台避難に資する東西の歩行者ネットワークを形成します。

ウォーカブルエリア内は、既存の道路空間の再配分により、歩行者中心の空間形成を目指します。

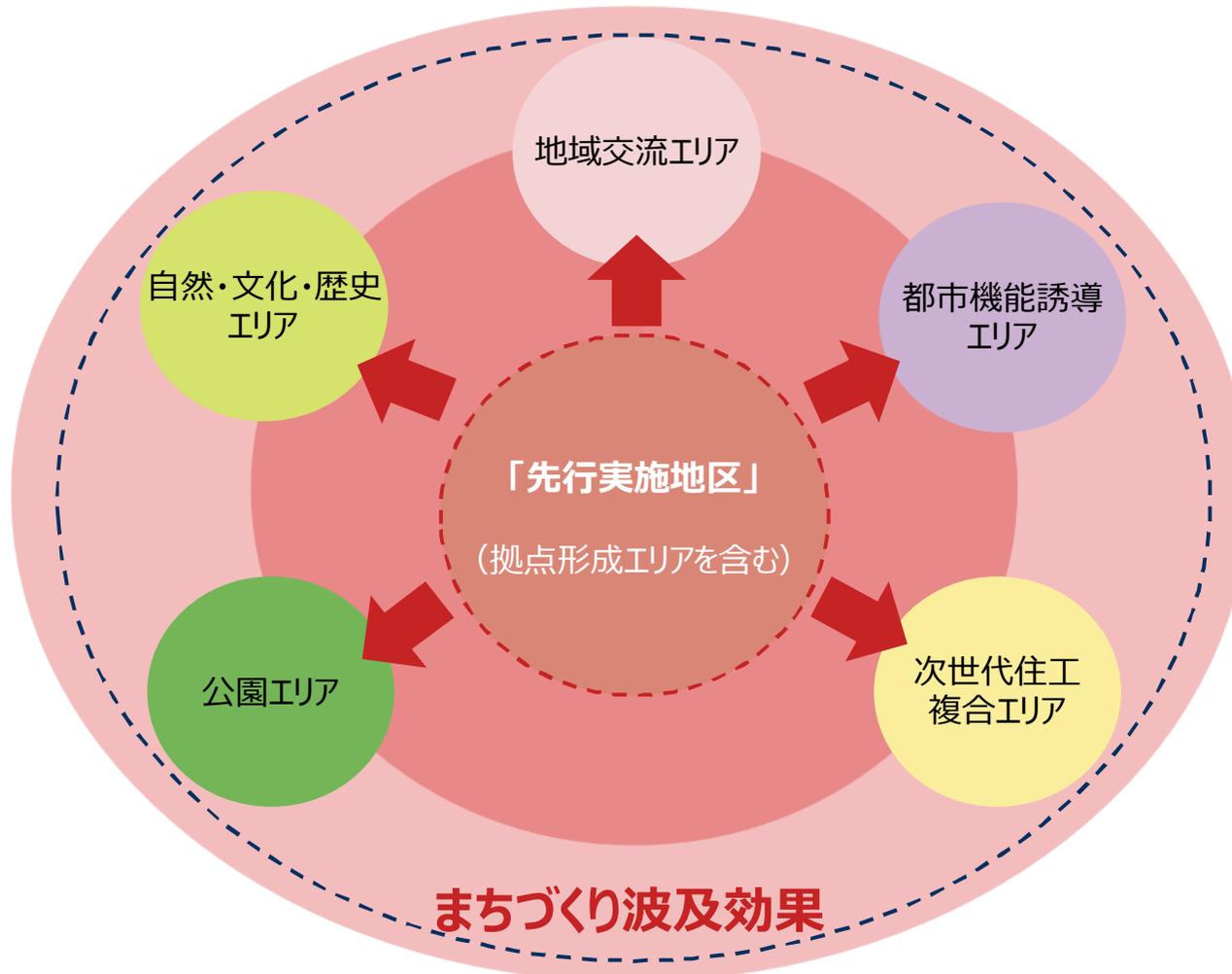


拠点形成エリアは、印刷局工場用地の一部を北区新庁舎建設予定地として決定しており、現在、土地譲渡に向けた印刷局王子工場の建替えなど、大規模な土地利用転換が予定され、開発ポテンシャルの高い区域です。

また、飛鳥山公園のPark-PFI事業やJR王子駅の改良検討など、隣接する箇所でも様々なまちづくりが進みつつあります。

この新庁舎建設に合わせて、拠点形成エリアとその周囲の一部で、エリア間をつなぐ新たな基盤整備と一体的に多様な機能を集積させ、活力とにぎわいの拠点形成を図ることが求められています。

これらの動きを踏まえ「先行実施地区」を位置づけ、概ね15年後を目指し優先的に事業化を図ります。

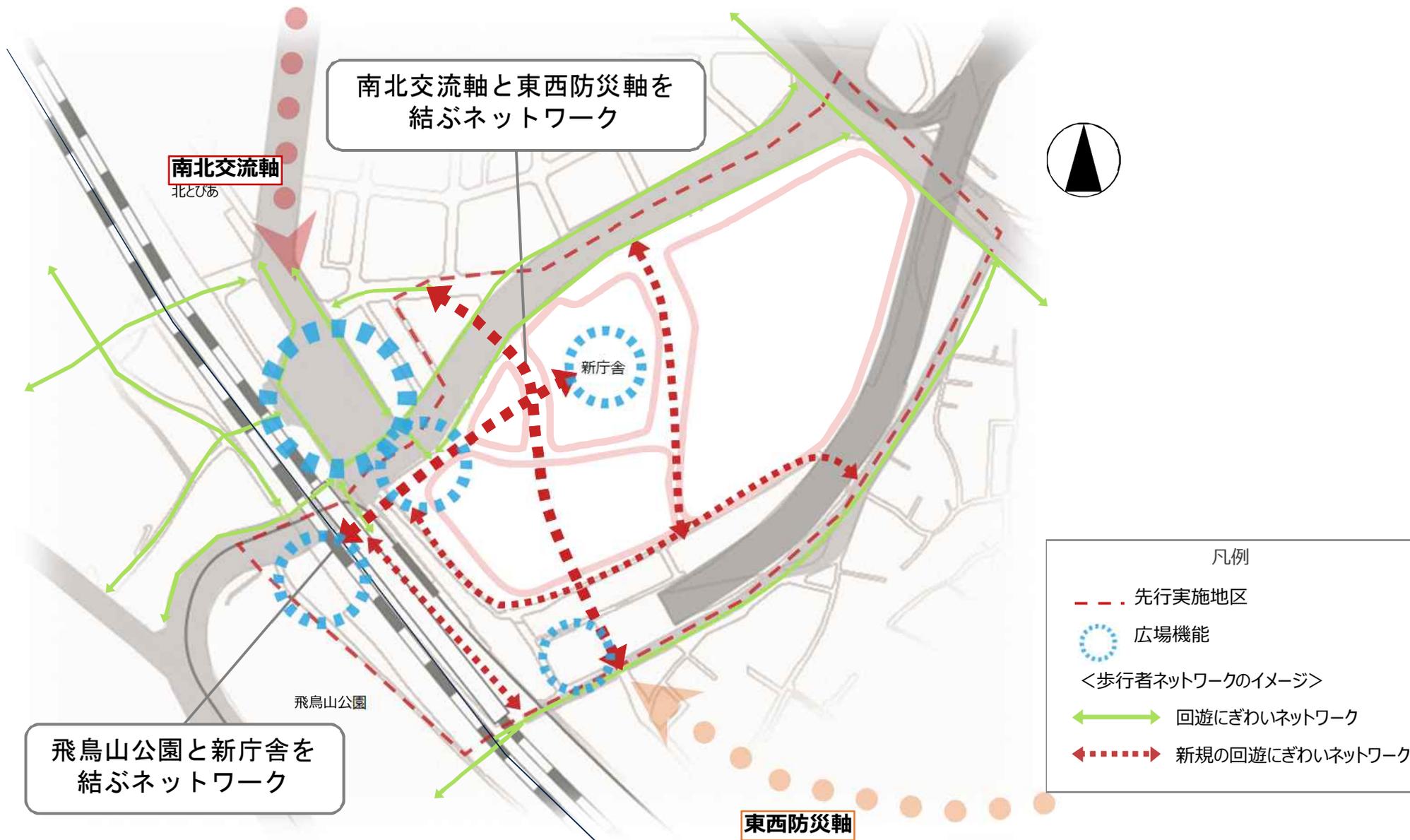


新庁舎建設を重要な核となる事業の一つとして位置付け、まちづくりの効果を周辺に波及させるよう、段階的にまちづくりを行います。

先行実施地区では、駅前を中心に歩行者の回遊性を高めるネットワーク形成を図ります。

歩行者が快適に滞在でき、憩いの空間にもなる広場機能の整備を誘導し、駅前の顔づくりを行います。

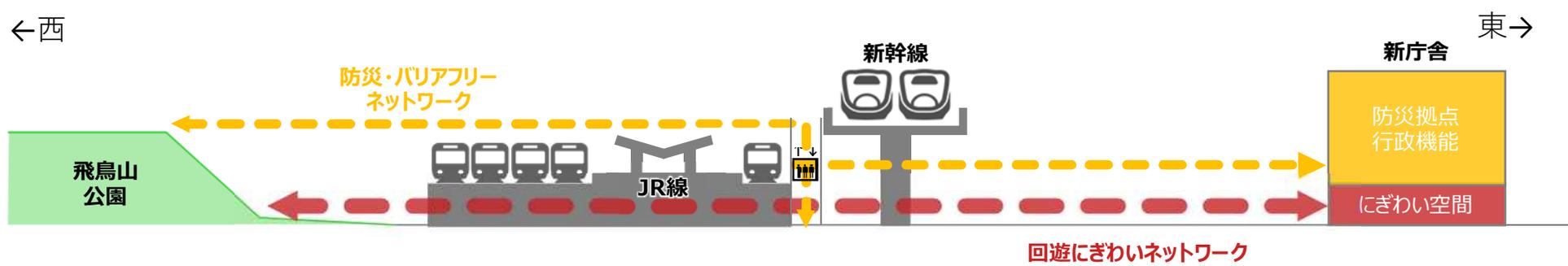
まちの軸や駅前の各広場空間を結ぶよう「回遊にぎわいネットワーク」を形成し、効果的に緑を配置することにより、にぎわいと潤いをまち全体に波及するようなネットワーク形成を図ります。



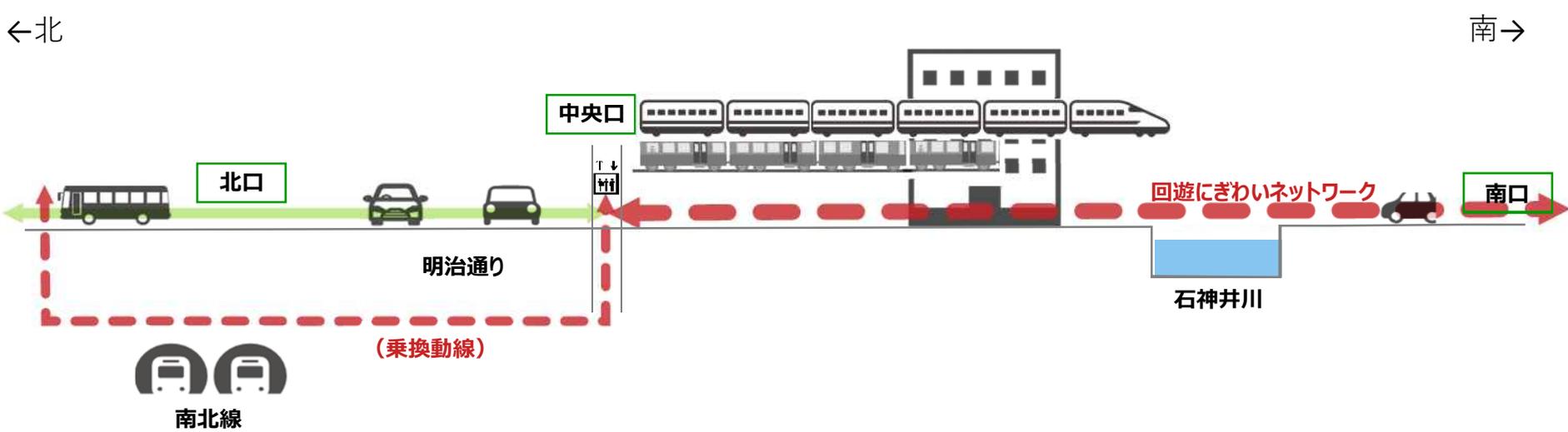
※本図は歩行者ネットワーク等の互いの位置関係をイメージとして示したもので、特定の位置を示すものではありません。

有事の際には防災拠点となる新庁舎と高台で避難場所でもある飛鳥山公園を防災・バリアフリーネットワークで結ぶことを検討します。防災・バリアフリーネットワークが実現すれば、水害時の高台避難を円滑にするとともに、新庁舎の防災拠点機能維持にもつながります。周辺の開発にあわせて、この防災・バリアフリーネットワークと接続することで、歩行者の回遊性向上にもつながることが期待できます。防災・バリアフリーネットワークの実現にあたっては、JR線、新幹線、南北線、都電、石神井川など駅周辺構造物との位置関係、整備手法や施工方法等いくつかの課題検証が必要になります。今後、このイメージを基に関係機関等と協議をすすめ、実現に向けて検討していきます。

●東西断面イメージ



●南北断面イメージ



※本図は歩行者ネットワーク等の互いの位置関係をイメージとして示したもので、特定の位置を示すものではありません。

先行実施地区で重点的に取り組むことを、整備計画として整理します。
概ね15年後を目途に、優先的に取り組んでいきます。



※取組の位置等、今後、関係者間と調整を行いながら検討を進めます。

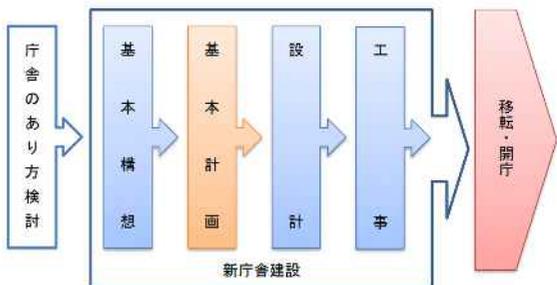
北区では、令和15年度頃の開庁を目指して新庁舎建設の検討を進めており、令和4年度末には新庁舎建設基本計画の策定を予定しています。

▼建設予定地



建設予定地は国立印刷局王子工場の一部です。現在、一部施設の解体、新築、移転に向けた準備が進められており、土地の引き渡しは令和10年度以降となる見通しです。

▼基本計画の位置づけと目的



新庁舎建設基本構想で定めた内容を出発点として、各項目について選択と具体化を図り、次の設計段階を円滑に推進するための計画と位置づけ、以下の内容を示します。

- ①設計や工事に向けた条件設定や要求水準
庁舎規模、必要諸室、耐震性、環境性能等
- ②開庁に向けて取り組むべきこと
業務やサービス改善、にぎわいづくりの方向性
- ③事業の全体像と今後の進め方
スケジュール、コスト、財源、事業手法

▼基本的な考え方



これまでに「王子駅周辺まちづくりガイドライン策定検討会」を2回開催しました。
 今回のオープンハウスでみなさまから頂いたご意見を踏まえ、あと2回の検討会で議論を深め、令和5年3月にガイドラインを策定する予定です。
 策定前には、案を基にパブリックコメントを実施し、みなさまからご意見を頂く予定です。



第1回【キックオフ】

現況整理、課題共有
 まちづくりのコンセプト
 「ミッション」、「戦略」、
 「プロジェクト」

第2回【整備構想】

先行実施地区のまちづくり

第3回【素案】

まちづくりガイドライン（素案）

第4回【案とりまとめ】

王子駅周辺まちづくり
 ガイドライン（案）と
 りまとめ